

北斗星

自分の街に眠っている『宝』を見つけ、地域活性化に結び付けていくのは実に難しい。津々浦々で地域再発見の取り組みが続くが、成功するのは一握りだろう▼東京・日本橋では、江戸文化を伝える老舗と最先端ショップが同居する街に女性たちが着目し、昨年、往時のにぎわいを復活させる活動を始めた。「日本橋美人プロジェクト」。この街には教養や品格を備え、心も体も美しい女性を育てる素地があるとの考えが背景にある▼賛同する企業もバックアップ。特別の宿泊プランを設けたホテルや女性向けメニューを用意したレストランも。独自の浴衣が作られショーも行われた。復活への挑戦が実を結びつつあるといえようか▼実は

日本橋美人が手本にしたのは秋田美人や京美人。「秋田美人は色白」といった美人像が定着し、商品の名称に使われるなど地域の活性化に役立ってきたからだ。その歴史と取り組みに敬意が払われている▼ただ現実の秋田はどうか。「美人を育てる秋田米」とのキャッチフレーズのような活用例などがみられるものの、県全体としてみれば秋田美人を自然に受け止めるだけで、活性化への『武器』ととらえる向きは少ないのではないか▼日本橋美人プロジェクトをリードする山田晃子さんは言う。「外から見る秋田美人のイメージは内部の見方より随分よい。秋田ならではの美人関連商品が売り出されれば、全国の女性に受け入れられると思う」。この言葉を本県人はどう聞くだろう。